

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糺2264番地1		
自己評価作成日	平成30年11月26日	評価結果確定日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護におけるノウハウを研修や意見交換等により職員全体に対して情報の共有を図っている。経験の浅い職員においてもこのノウハウを教育、管理することによって、より短期間で介護レベルアップすることが出来るようになった。職員への教育指導の在り方が独自的に確立できていることは我々の誇りである。このことにより利用者本位の介護を実践出来ており、施設内はいつも明るく楽しい雰囲気生活にメリハリがあり、ご来園されるご家族様から好評を頂戴することがある。今後は、個別ケアによりその利用者様にあったケアを行っていきます。また、もっと地域に密着し、より貢献度の高い施設を目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に理念や目標を大きく掲示し、広い共用空間や廊下で体操や歩行、下肢の屈伸運動、外気浴の散歩などなど日々のケアを積み重ね、職員の連携で理念の実践に努めている。介護計画に本人や家族の気持ち、意向がそのまま記載され、担当者会議で職員の気づきやモニタリング結果を話し合い、脳血管疾患の再発を防止し、排泄介助を受ける入居者の心情を理解したケアに取り組んでいる。地域盆踊りの準備や後片づけなどの行事参加を継続し、地元中学校から4名の生徒の職場体験を受け入れ、認知症の特性について説明しているが、孫のような生徒たちに入居者ほにこ顔であった。運営者は「人として気持ちの豊かな人材を雇用したい」、「仕事に誇りを持ってほしい」と研修受講を推奨し、人材育成に努めている。理念や目標の邁進で、社訓の地域福祉への貢献が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意義や達成に向けてのプロセス等を職員に対して周知徹底を図っている。日々の情報を共有し、一つ一つ理解しているか確認しながら実践している。	玄関に理念や目標を大きく掲示している。広い共用空間や廊下で体操や歩行、下肢の屈伸運動、外気浴の散歩などなど日々のケアを積み重ね、職員の連携で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会を通して行事に参加している。	地域盆踊りの準備や後片づけなどの参加を継続し、手作りの作品を文化祭に出品している。子ども110番を掲示し、地元中学校から4名の生徒の職場体験を受け入れ、認知症の特性について説明している。孫のような生徒たちに入居者にはにこにこ顔であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の転倒予防教室の開催の際には、職員が意見を求められることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の設置目的を明文化し、会議録の施設内掲示と利用者ご家族様への報告を行っている。	家族が1～2名、地域代表の参加で定期的開催され、避難訓練や職員研修などを報告している。市担当者からは介護保険制度に関する情報の提供があり、会議内容は市のホームページに掲載している。	会議内容を共用空間などに掲示し、更なる会議の周知や活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当部署へは業務相談等を通じてコンタクトを取っている。医療保健相談も事例に基づいて行っている。	市の包括支援室に、身元引受人の高齢化や逝去等による後見人がいない場合の支払いについてや、先日退去に至ったが入居後も再三お願いしても保険証を持参しない家族について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への人権教育を通じて、介護業務における禁止事項を周知徹底しており、拘束に繋がる考え方を排除して実践出来ている。	身体拘束適正化方針を整備している。身体拘束に関する研修を実施し、運営推進会議で身体拘束について話している。食事用のエプロンは使用目的を家族に説明し、購入をお願いしている。現在は、外出傾向のある入居者はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で周知し、理解を深め虐待の防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等での解説を行っているが活用の実績はない。相談ができる行政の窓口等が記載されたパンフレットを用意している。	管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いについて理解し、随時説明するためにパンフレットなどを整備している。現在まで活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全利用者へ行っており、問題はない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況等ご家族様に説明をする際、意見・要望を伺い、運営に活かすことを実践している。	毎日来所する家族もあり、来所しない家族はいない。来所時に日頃の状況を説明し、当日に誕生会、クリスマス会、餅つきを家族に案内し意見の表出を促しているが、特段の意見はない。9月の敬老会は2名の家族が参加している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会議の際には、意見が言いやすい場や機会を設けて実際活用できている。	ケア会議や職員会議を兼ねて月1回会議を開催している。個人記録を見直してチェック様式にしたり、リフトの導入を検討するなど、職員の負担軽減に努めている。夜勤職員の意見を新人職員の育成に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務条件等、代表者と職員との話し合いの機会を持つ事により、職員が向上心をもって働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	総労働時間の短縮等の検討を行っている。	ハローワークの求人で10代で入職した職員もあり、「(仕事が)楽しい、食事作りが好き」と笑顔で勤務している。運営者は「人として気持ちの豊かな人材を雇用したい」と力説している。20代から71歳までの男女の職員が勤務し、職員の段階に応じた新人教育を行っている。昼休みを交代で取り、研修受講を推奨している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用選考において各自の条件を先入観なく公平な判断を行っている。	年間研修計画で、倫理や法令重遵守などの研修に取り組んでいる。日頃から入居者の人権や尊厳に配慮した声かけや対応を指導し、運営者は「仕事に誇りを持ってほしい」と話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	DVDを使用した研修を実施し、啓発に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の介護事業者の交流会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用の申し込み段階からインテークアセスメントを実施し、早い段階からより多くの情報の習得を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安の解消を第一に考えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用の申し込みで得られた情報を基に、行政や医療機関とも密接に連携しながら最適な方法を模索している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力やメンタル状態に応じて、共存して行く為の関わり方を考え、提供している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いにより出来る限りの支援を要請し、関係の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や旧友との連絡や訪問も途切れることがないように支援している。	家族が毎日来訪する入居者や、家族と法事に出席したり外出する入居者もあり、家族関係の継続や馴染みの場所への外出を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関係を把握し、考慮しながらお互いにとっての最適な支援ができるよう工夫しながら行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後のフォローは勿論、自宅復帰ができた方においても、定期的に訪問するなど関係が途切れることのないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表面的な意向に左右されず、本質的な意向を見抜き、提供・実現に繋げている。	昨夜は3人が起きていたが、無理に寝かせようとせず、それぞれの入居者の生活のリズムや意思を大切にしていると職員は話している。ケアマネージャーは、意思の疎通ができなくなった入居者の思いの把握を模索している。	アセスメントシートに具体的な介助方法や状況変化、職員の気づきを書き加え、更なる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	詳細なアセスメントにおいて、綿密に実施している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化していく心身状態を把握し、適切なアセスメントを実施している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日々の利用者の状況やご家族様と接した時の意見等を参考にし、介護計画に活かしている。	介護計画に本人や家族の気持ち、意向をそのまま記載し、担当者会議で職員の気づきやモニタリング結果を話し合い、計画の作成や見直しをしている。脳血管疾患の再発を防止し、排泄介助を受ける入居者の心情を理解したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにより、実施・評価を行い、介護計画にフィードバックしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを目標に日々検討している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公的機関の利用や催事を探り、楽しんで頂けるよう利用している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向の把握を行い、複数の医療機関受診先に行っている。	定期的な協力医療機関受診や、必要に応じて専門医療機関受診を支援している。入院時仙骨部に褥瘡ができた入居者もあり、経過によっては褥瘡外来を受診予定である。訪問歯科も来訪し、歯磨きや口内炎について職員に指導している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市の保健師への相談も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の看護師やソーシャルワーカーといった職種の方々との連携を通じて治療の方針や早期退院に向けての話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初期の契約段階で概ねの意向把握を行い、健康状態に応じて具体的な提言を行っている。	看取り確認書を整備し、入居時に説明しているが、状況に応じた対応が行われている。最期に医療機関に緊急搬送を希望する家族が多く、現在までホームでの看取りはない。看護職員も勤務しているため、看取りの希望があれば支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修等を通じて救命の基礎知識を習得するとともに、個別に外部研修やAEDの訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時行動計画を立案し、行政へ届け出している。	6月は消防署の指導でパケツリレーを行っている。ホーム裏が土砂崩れ危険地帯に指定されているため、行政指定避難所を確認している。来春2月も訓練予定で、敷地内の倉庫に、3日分の飲料水やレトルトのご飯などを備蓄している。AEDを設置し、救急法の研修も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「よく気が付く職員さん」を目標に、日常の言葉使いや表情の指導を常に行っている。	入居者に「〇〇さん」と丁寧な声かけや対応が行われている。昨夜寝ていないため車椅子で居眠りする入居者もあるが、声をかけながら食事や歯磨きを促している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	判断が難しい利用者へも、選択して頂きながら尊重している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね本人のペースで生活して頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や身だしなみ、本人の意向を尊重・考慮しながら支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成しているが、食べたいものの聞き取りを反映して取り入れするスタイルが定着している。準備や後片付けもできる方に行っている。	入居者の心身状態に応じて食卓を3つに分け、声かけや見守りで其々のペースで完食する入居者が多い。傾眠傾向の入居者にはムース食を用意し、褥瘡を改善したいと覚醒を促しながら、誤嚥に留意した丁寧な介助が行われている。また、「ピフテキが食べたい」、「さしみが食べたい」との意見があったり、外食を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態等を配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさずに行っている。定期的に訪問歯科医のケアを受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助を積極的に行い、成果が出ている。	声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。入院時褥瘡ができた入居者には、入浴時や排泄介助時、医師の指示による処置とケアで改善にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を多くして運動や水分、腹部マッサージ等により自然排便を促す努力をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は概ね決めているが、本人の意向を尊重した時間帯に行っている。	週3回を目途に、車椅子の入居者も動線に配慮し、安全で安楽な入浴を職員1人で対応している。寒くなり入浴を億劫がる入居者も、入ると上りたくないと話している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした時間の過ごしやすさがあり、安眠の確保に取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	原則として、個々人の薬の手帳を活用し、服薬の把握とその効能を理解し、変化を記録して医療機関と連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こもりきりにさせない事を原点に、様々な工夫や役割分担、楽しみ事の提供を通じて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物の同行、ご家族様の受診対応など外出の機会は多くある。	毎日僅かな時間でも園周辺を散歩し、外気浴をしている。毎週月・木を買い物の日と定め、車イス利用者も順番に出かけたり、日用品の買い物に同行し、好きなものを購入する入居者もある。桜、紫陽花、コスモスなど季節の花見に数名ずつ数日に分けて出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭を所持している人はいない。ホームの買い物に出かけたときは、レジの支払いは利用者をお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等時候の挨拶状、お礼状など折に触れ支援を継続している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や安心感を感じやすくする工夫をし、居心地に配慮している。	クリスマスツリーが飾られ、壁には手作りのちぎり絵の大作、運動会やコスモス見学でのスナップ写真が飾られている。全居室を見渡すことができる広く明るい共用空間はアクティビティや運動会会場となり、傍の厨房から美味しそうな匂いが漂っている。空調が管理され、車イスで居眠りしたり、テレビの前のソファで寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が、各自の思いで過ごせるようになっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品等、好きなもの・安心できるものに配慮した居室づくりに努めている。	入口に職員手書きの似顔絵とコメントが掲示され、つい顔がほころびそうである。クリスマスリースで飾られたドアから入ると、誕生会でのメッセージや絵が飾られ、自宅から持参したタンスや机が置かれ、その人なりの居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと、ご自分で行うことを原則としている。		